

## 国宝、日本の美をめぐる 東京国立博物館名品展

縄文時代から江戸時代まで、国宝、国指定重要文化財を含む44件もの名品を一堂に展示した、「おおいだ大茶会」の目玉といえる企画展。内覧会で東京国立博物館の田沢裕賀学芸研究部部長が、「大分の学芸員が集めてきたところが見どころです」と話したように、東京国立博物館の所蔵品の中からOPAMの担当学芸員がセレクトした、縄文土器から伊藤若冲、葛飾北斎の絵画まで、各時代を代表する貴重な文化財の数々が、3つの章に分かれて展示されました。田能村竹田など大分県ゆかりの作品も並び、大分の文化の豊かさを示していました。



### 関連事業

11/2(金)  
トークイベント  
「日本の美 —その歴史をめぐる—」  
講師:田沢裕賀氏(東京国立博物館 学芸研究部部長)

11/3(土・祝)・10(土)・17(土)・23(金・祝)・24(土)  
ギャラリートーク



## 日本モダンの精華 京都国立近代美術館コレクション

京都国立近代美術館全面協力のもと、近現代の日本画、洋画、工芸の名品58点を紹介しました。なかでも臼杵市出身の実業家・故首藤定氏旧蔵の「首藤コレクション」の中から選ばれた、19点にも及ぶ福田平八郎(大分市出身)の作品は圧巻で、内覧会では、《花菖蒲》や《竹》など大分に馴染みのある日本画家の代表作に見入っていました。開会式で柳原正樹京都国立近代美術館長が、「通常は5~6点の貸し出しのところ、常設が手薄になるほど惜しげもなく持ってきました」と語っただけあり、日本の近現代美術の歩みが垣間見える、見応えのある企画展となりました。

関連事業 9/28(金)  
トークイベント「美術四方山話」  
講師:柳原正樹氏(京都国立近代美術館長)

9/28(金)・10/13(土)・20(土)  
ギャラリートーク



昨秋「第33回国民文化祭・おおいだ2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいだ大会」が盛大に執り行われ、県下各地で多くの県民の参加のもと、幅広い芸術文化活動が繰り広げられました。当財団においても「にっぽん芸術科学祭」と銘打ち、大型のオペラやミュージカル、国立館の名品展や市町村と連携した美術展示、宇宙や深海に関する科学展示、教育普及活動展示や海外のお茶文化の紹介など、培ってきたネットワークを最大限活用し、これまでの取り組みの集大成となるような多様な事業を展開。過去、現在、未来へと継承される我が国の芸術文化と科学技術の魅力を幅広く紹介しました。会期中には、大変多くの方々にご参加いただきました。